

高校生、内定目指し受験 県内でも採用活動解禁



厳しい就職状況の中、高校生らが採用試験に臨んだ
＝佐賀市の県薬剤師会館

前年同期を0・01割下回った。1倍を大きく下回る厳しい環境の中で、生徒らは内定を目指し試験に挑んでいた。

調剤薬局の運営、介護用品レンタルなどを行う大平（小城市）では生徒6人が受験。筆記試験と面接に臨んだ。同社は業務拡大などで、例年より採用を増やす見込みという。副島広幸社長は「何事にも前向きで、こつこつと堅実に課題に向き合う人を求めたい」と話した。

佐賀労働局などによると、県内の高校生の就職希望者は前年同期比2・7%増の2759人。求人数は同1・8%減の1119人。希望者の約

6割が県内での就職を望んでいる。円高や景気低迷で業種によって求人に偏りがあるようだと話す。（星野一裕）

来春卒業予定の高校生を対象にした採用活動が16日、解禁され、佐賀県内でも企業な

どが就職試験を実施した。7月末時点の県内の高校生の有効求人倍率は0・41倍で